

平成21年 3月18日

### 北東アジアにおける12フィートコンテナ普及拡大に向けた調査

#### ～調査結果がまとまりました～

九州運輸局では、平成20年8月に設置した「北東アジア12フィートコンテナ普及拡大検討委員会」において、検討中であった「同コンテナの普及拡大方策」や「次年度以降の実証実験に向けたモデル設計」等について、調査結果がまとまりましたのでお知らせします。

平成20年5月に開催された「第2回日中韓物流大臣会合」では、行動計画のひとつとして、12フィートコンテナの北東アジア経済圏での標準化に向けた取組の推進が盛り込まれました。

本調査は、これを受け、従来関東圏などから上海向けに航空便により輸出していた貨物を、博多港から中国・韓国向けにシフトしていくことを目的としたもので、低価格・高速かつ環境にやさしい国際シー・アンド・レール輸送を軸とした一貫物流体制拡充を図るため、以下のとおり普及拡大プランを提示しました。

#### 北東アジア12フィートコンテナ普及拡大プラン

##### ●コンセプト

エアカーゴと同レベルのサービスを低価格で実現

##### ●具体的プラン

- ・荷量が少ない小口荷主へのサービスとして「ミルクラン混載による12フィートコンテナを活用した国際シー・アンド・レール」
- ・①集荷方式②混載作業・場所③通関場所などの条件の組み合わせから最適パターンを提示

##### ●期待される効果

- ・航空輸送を活用する荷主のコスト・CO2削減
- ・関東圏など遠隔地からの博多港等への集荷拡大
- ・小口荷主など国際シー・アンド・レールのターゲットの範囲拡大や認知度向上

関東から上海間輸出リードタイム比較

航空貨物	3日
シー(SSE)・アンド・レール	4日
一般コンテナ船	6日



#### 北東アジア12フィートコンテナ普及拡大検討委員会

##### 委員会メンバー

国土交通省 政策統括官付 参事官(物流政策)室、九州運輸局(事務局)、九州国際大学准教授、日本貨物鉄道(株)、日本通運(株)、門司税関、九州地方整備局

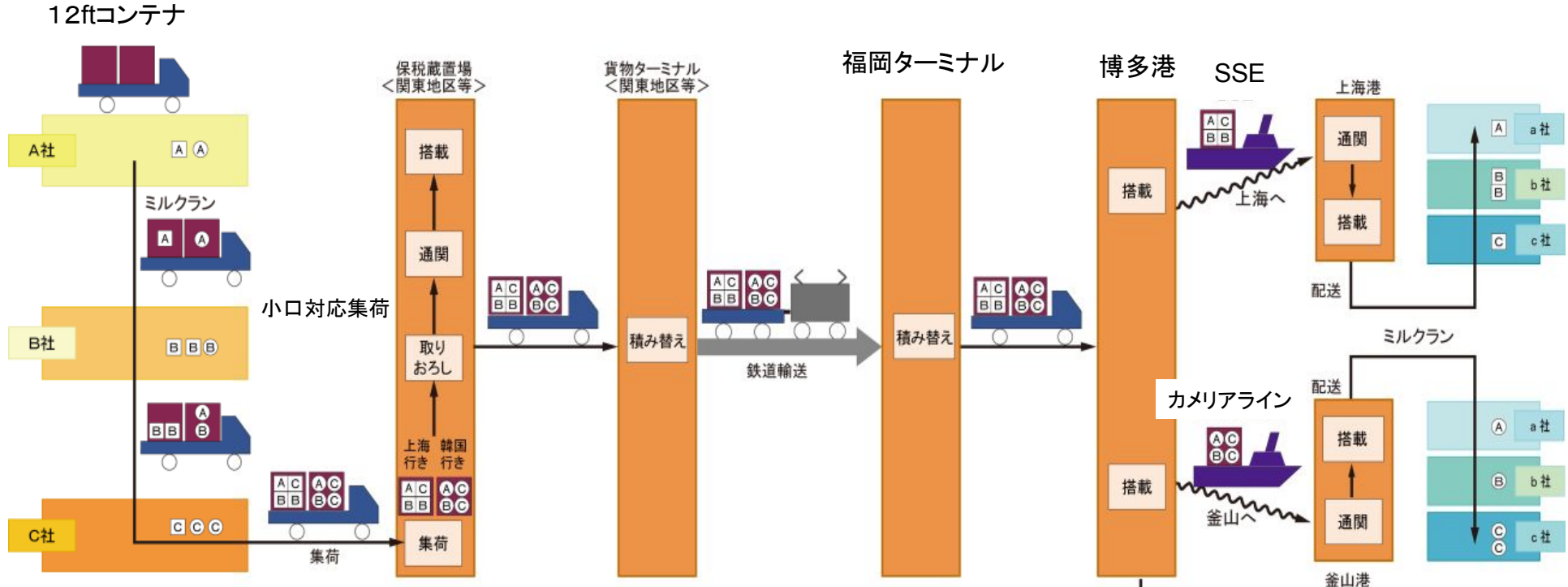
連絡先：九州運輸局 交通環境部 物流課

担当：鹿毛、才田

電話 092-472-3154

FAX 092-472-2316

## 最適パターン ミルクラン×発地通関×混載作業なし



集荷の時点で配送方面別(上海・韓国等)にコンテナを組み上げるため、混載作業が発生せず、スピーディーな輸送が可能である。

ミルクランの特性を活かしつつ、スピード輸送を行うという点では最も有効な輸送モデルだと考えられる。

また、通関までの作業を発地で完結させるため、それ以降はコンテナを開くことなく、上海、釜山まで輸送することができる。これにより、リードタイムを短縮させるだけでなく、混載に対する荷主企業のセキュリティ面などでの不安感を軽減することも期待できる。

一方で、ミルクランで集荷した以外の貨物との混載は行わないため、積載効率の面では不安が残る。積載効率を高めるためには、荷物発生状況の正確な事前把握(方面・物量)が不可欠だと考えられる。荷物の発生状況に応じた集荷体制の構築を迅速かつフレキシブルに組めるかという点が課題である。

